

第33回

民俗芸能と農村生活を  
考える会

綾子舞 小歌踊  
常陸踊(高原田)

新潟県柏崎市の郷土芸能

# 綾子舞

あやこ まい

## 公演

鶴川地区の  
田園風景



黒姫神社の大杉



開催日時

令和5年

1月7日(土)

13:00開演

開催場所

日本教育会館一ツ橋ホール  
(東京都千代田区)

主催



一般社団法人 全国農協観光協会

後援

農林水産省/文化庁/観光庁/新潟県/千代田区/柏崎市/全国農業協同組合中央会/  
新潟県農業協同組合中央会/柏崎農業協同組合/一般社団法人柏崎観光協会/  
一般財団法人地域伝統芸能活用センター/新潟日报社/株式会社日本農業新聞/  
全国民俗芸能保存振興市町村連盟/公益社団法人全日本郷土芸能協会/株式会社農協観光

一般社団法人 全国農協観光協会

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-16-8 4階  
TEL.03-5297-0321 FAX.03-5297-0260

ホームページ: <http://www.znk.or.jp>  
メール: [zennoukan@i-znk.jp](mailto:zennoukan@i-znk.jp)



新型コロナウイルス  
感染症拡大防止のためのご案内

※新型コロナウイルス感染症の状況により、  
公演を急遽変更する場合があります。

●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演当日受付の際に氏名・連絡先をお伺いします。●定員は会場の1/2以下としておりますのでご了承ください。(2022年12月1日現在) ●発熱、咳等の症状のある方、体調不良の方、過去2週間以内に感染が拡大している国や地域への訪問履歴がある方はご来場をお控えください。●ご入場の際、非接触型検温機等で検温を行います。検温の結果、発熱等の症状がある場合は入場をご遠慮いただきます。●列にお並びの際は、他のお客様との間隔を空けてください。●ご来場の際は必ずマスクの着用をお願いします。●手洗い・うがい・手指消毒にご協力ください。 ※その他、詳細につきましては本会HPにてご確認ください。

## プログラム

第33回 民俗芸能と農村生活を考える会

# 新潟県柏崎市の 郷土芸能より 綾子舞

12:00  
開場・受付

13:00  
開会・挨拶



13:10  
【第一部】

民俗文化の背景をさぐる  
〜新潟県柏崎市と綾子舞について〜  
休憩(約20分)

14:00  
【第二部】

民俗芸能の特別公演(綾子舞)

演目

- 【下野・小歌踊】小原木踊
- 【高原田・小歌踊】常陸踊
- 【高原田・小歌踊】小切子踊
- 【下野・狂言】海老すくい
- 【下野・小歌踊】常陸踊

15:30頃  
閉会



第二回  
民俗芸能と農村生活を考える会  
パンフレット・綾子舞表紙

## ◆主催者挨拶

第33回民俗芸能と農村生活を考える会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

今年で第33回となる本公演は、都市住民の皆様へ全国の農山村地域の伝統的な民俗芸能をご紹介することによって、地域の農業と暮らし、伝統文化や歴史についての理解を深める機会を提供し、都市と農村の交流により、地域活性化の一助となることを目的として開催しております。3年ぶりの東京会場開催となり、今回は新潟県柏崎市に約500年前の室町時代から伝わる古典芸能で国指定重要無形民俗文化財に指定される「綾子舞」をご紹介します。民俗芸能と地域の暮らしを、ご来場の皆様とともに考えていきたいと思っております。

民俗芸能は、地域の生活や文化に溶け込み、神事や祭りなどによって地域住民を結びつけるきっかけとなっております。この活動は地域資源ならびに地域の絆です。我が国は少子高齢化の只中にあり、農山村地域でも人口減少の影響による「過疎化」は年々深刻化しております。そういった社会情勢の中、古くから

伝承されてきた民俗芸能をどの様に後世へ受け継いでいくべきかを考える会と農村生活を考える会」がその機会となり、都市と農村の架け橋になることを切に願っております。

また、「民俗芸能と農村生活を考える会」が第33回を迎えることができてきすことも、ひとえに各民俗芸能関係者の皆様とご来場の皆様のご支援の賜物と心より感謝しております。本会は今後もこれらの取り組みを通じて、都市住民の皆様にも、様々な情報を発信するとともに、農山村地域に寄り添い、都市と農村の交流人口づくりや観光振興を支援してまいります。

結びに、今回ご協力いただきました新潟県柏崎市ならびに柏崎市綾子舞保存振興会・柏崎市綾子舞後援会をはじめとする地域の皆様、さらに関係団体の皆様にご心より御礼申し上げます。



一般社団法人全国農協観光協会  
代表理事 会長 櫻井 宏

## ◆東京公演によせて

この度、第33回「民俗芸能と農村生活を考える会」が盛大に開催され、すこを心よりお慶び申し上げます。

「民俗芸能と農村生活を考える会」に、「綾子舞」が平成2（1990）年に続き2度目の公演の機会をいただき、出演者共々感激しているところでございます。

綾子舞の伝承地である柏崎市は、新潟県のほぼ中央に位置し、米山・黒姫山・八石山からなる刈羽三山の懐に抱かれ、42kmの長い海岸線を持つ自然豊かな街です。古くは北前船の交易、縮商ちぢみいで文化的にも栄えた当市は、200年以上もの歴史を持つ「えんま市」や、越後三大花火として知られる「ぎおん柏崎まつり海の大花火大会」など誇るべき伝統行事も多く、中でも「綾子舞」は約500年前から伝承されてきた当市を代表する文化遺産です。

この綾子舞は、初期歌舞伎の面影を残す芸能としてその価値の高さが認められ、昭和51（1976）年に国の重要無形民俗文化財の第一回に指定を受けました。小歌踊、囃子舞はやし、狂言の3種類からなるバリエーション



海老すくい(高原田)

豊かな民俗芸能です。

本公演に先立ち、昨年10月には事前交流会として、綾子舞や民俗芸能に関心のある方々を対象に日帰りモニターツアーが開催され、綾子舞の伝承地である鶴川地区おなだに女谷にお越しいただきました。座元を交えて綾子舞について語らうとともに、衣装の着付けも見学していただき、充実した秋の一日をお過ごしいただきました。

そんな綾子舞も次世代への継承が大きな課題となっています。今日の公演を契機に新たな交流が生まれ、ユネスコ無形文化遺産登録とともに未来へ向けた伝承の力となることを期待しています。

結びに、日本の特色ある伝統文化や歴史への理解を深める活動に取り組まれる貴会のますますの御発展と本日の公演の御盛會を祈念申し上げます。



柏崎市長  
櫻井 雅浩

# 柏崎市

新潟県

かしわざきし



柏崎市

新潟県

誰もが力強さと心地よさを感じるまち  
～これからもずっと そしてもっと柏崎～

荻ノ島集落

柏崎市は、豊かな自然や地域文化・歴史、産業を活かした活力と魅力あるまちを目指して、市民の皆様と手を携えて邁進してきました。固有の歴史があり、豊かな自然環境と伝統によって培われてきた生活と文化があります。その、歴史・伝統を大切なものとしながら、より良いもの、豊かなものを求め「保守、そして進取」の精神で柏崎市は前に進みます。

柏崎市にはコメの山、**米山**があります。米山は一等三角点の秀麗な山で、山頂からは360度の展望が楽しめます。柏崎市と上越市柿崎区にまたがってそびえ、戦国時代には、上杉謙信が越後支配に向け旗揚げをするなど要衝の地でした。民謡が好きな人なら一度は聞き覚えのある「米山さんから雲が出た」の名調子で有名な「三階節」や「米山甚句」に歌われ、広くその名が知られています。山頂には日本三大薬師の一つ米山薬師堂が建ち、豊作などを祈願する米山講中の人々たちによって古くから登られてきました。刈羽黒姫山、八石山とともに刈羽三山に数えられています。(写真1 米山)

柏崎産コシヒカリを対象として、おいしく安全な米づくりを目指し、市が定めた厳しい基準(品質・食味・

栽培方法)をクリアした認証米が「**米山プリンセス**」です。柏崎の自然の恵みをもたらす刈羽三山「米山・黒姫山・八石山」の文字を織り交ぜて名づけられました。米山はコメの山と書き、文字どおり農業にとって縁起の良い山の名称としてそのまま取り入れ、黒姫山は「姫」の部分をプリンセスに、八石山は「八」の部分を「米」の字の中に込めました。「プリンセス」は、生産者がお姫様のように、大切に丹精込めて育てたお米であることを表現しています。豊かな甘みともっちりとした食感が特徴で、白米やおにぎりで味わうのがおすすめです。(写真2 米山プリンセス)





青々とした田んぼの奥に茅葺屋根の民家が美しい**荻ノ島集落**は「**日本のむら景観百選**」に選ばれています。荻ノ島集落の起因は、明治41年の大火で史実を記録した古文書のほとんどが焼失しているため不明瞭な部分が多いとされていますが、集落東端にある松尾神社境内から縄文時代中期と推定される貝塚やつぶて石、矢尻、砂岩の器などが発掘され、この時代の頃から人々の営みの痕跡が残されています。また、今から820年前に、木曾義仲に従う残党が住みついたと古文書に伝えられており、この時既に集落に人々が住んでいたものと推定されます。荻ノ島集落の地形は、西側には背後に続く上り斜面と沢があり、東南に開けた日当たりの良い扇状地に集落が展開しています。南・東・北の三方に外敵の侵入を阻む谷があり、万一侵入して来た場合に逃れる背後の山々、暮らしに欠くことの出来ない沢の水源があり、日当たりの良い扇状地など集落の源とも言える地形を



4



5



6



7



8

有しています。この台地に周辺の素材を活かし、豪雪を克服すると共に、「農」を営む機能を備えた茅葺中門造りの民家が環状に立ち並んでいます。背後の近山、林、茅葺の家並、これらに囲まれた田んぼは、まさに日本昔ばなしに出てくるような村の情景であり、日本を代表する原風景の一つとされています。(写真 荻ノ島集落)

**棚田**の上部から見た景色は絶景です。春になると田のあぜ道には色とりどりの花が咲き、遠くに見える越後三山と目の前に広がる表情豊かな棚田のコラボレーションはきっと多くの写真家の心を魅了していることでしょう。(写真 棚田)

**松雲山荘**は、ニュース番組で「**紅葉の美しさが日本一**」と紹介されたことがきっかけで、全国的な観光名所となりました。美しい日本庭園と色鮮やかな紅葉。池や灯籠、太鼓橋などを配した情緒あふれる日本庭園は、大正15年の造園です。園内には、もみじ、

つつじ、赤松など多くの木々が色づきます。毎年10月下旬〜11月下旬にかけて夜間ライトアップも行われ、多くのお客様で賑わいます。また、園内には茶道専門の**木村茶道美術館**があり、お茶を楽しみながら紅葉の風情が楽しめます。(写真 松雲山荘の紅葉)

きれいな日本海で海水浴、サーフィン、シーカヤックができます。青い空の下に山と海が広がる**日本の渚百選**「**鯨波海岸**」。新潟県を代表する海水浴場で、県内はもちろん、県外から多くの海水浴客が訪れます。また、JR鯨波駅より徒歩1分とアクセスも良く、駅から海岸へとむかう道路は売店が立ち並び、とても賑やかなムードです。海岸は岩場が点在するワイドなビーチなので開放感たっぷり。家族連れからカップルまで幅広い層に人気があります。(写真 鯨波海水浴場)

柏崎は約42kmの海岸線をもつ海のまちで、複雑に入り組んだ岩場のリアス式海岸は良好な漁場として知られています。特に笠島沖には鯛

の産卵場があると言われています。そのおかげで柏崎は**県内有数の鯛の水揚げ量**を誇り、昔から鯛料理を提供するお店が多くありました。そんな鯛料理で柏崎を盛り上げようと組織されたのが「**鯛プロジェクト**」。地域が一体となって「鯛めし」と「鯛茶漬」の研究を重ねてきました。2013年には「全国ご当地どんぶり選手権」で柏崎の鯛茶漬がグランプリを獲得し、柏崎を代表する名物グルメとなりました。現在は「柏崎鯛茶漬」を目的に多くの方が柏崎を訪れています。(写真 鯛茶漬イメージ)

日本海を舞台に開催する**柏崎の海の大花火大会**。世界に類を見ない打ち上げ範囲の広さが最大の魅力です。長さ600メートルの堤防で打ち上げるワイドスターメイン、海に向かって打ち込まれる海中空スターメイン、大迫力の尺玉100発一斉打上、「柏崎市民一同」の名がついた魂を込めた大花火などが次々と日本海に打ち上がります。夕焼けの空を映し出す海と花火のグラデーション、漆黒に包まれた空間に響く轟音と光。1時間30分の間に約1万5千発もの花火が、海空中に次々と打ち上がり、柏崎の夜を彩ります。五感を研ぎ澄まし、空を埋め尽くすほどの豪華絢爛な花火をお楽しみ頂けます。(写真 柏崎大花火大会)

## 歴史・文化資産の保存と活用

市内に所在する国指定文化財は、11件です。「大泉寺観音堂」と「多多神社本殿」は、共に戦国時代に建てられた建造物です。民俗芸能である「綾子舞」は、日本の初期歌舞伎踊りの流れをくむとされ、毎年9月の第2日曜日に開催される現地公開のほか、11月第2日曜日にもアルフォーレでの公演を定期的に行うとともに、市内外各所での依頼公演や伝承者育成に積極的に取り組んでいます。名勝「貞観園」は、貞観堂を中心に池をめぐるし、数多くの茶室等を配置した庭園です。このほかの国指定物件である絵画1件、彫刻1件、書跡2件は、いずれも貞観園の所蔵です。「下谷地遺跡」は、弥生時代中期の初期農耕集落で管玉の製作工程を示す資料が注目されており、これらは弥生土器や石器類とともに、「下谷地遺跡出土品」として県指定文化財となっています。また、天然記念物には、「鶺鴒神社の大ケヤキ」、「宮川神社社叢」があります。



市指定文化財

### 黒姫神社の大杉

黒姫神社境内にある樹齢800年と云われる大杉。「綾子舞」の現地公開は、以前はこの老杉の下が舞台で、500年も続く伝統芸能の雰囲気、より一層醸し出していました。



鶺鴒神社の大ケヤキ



貞観園



多多神社本殿



大泉寺観音堂

### 柏崎市 MAP



#### □ 位置・面積・人口

市は、日本海に面した新潟県のほぼ中央に位置し、柏崎刈羽圏域の中心となっています。県都、新潟市まで84km、北陸自動車道で1時間30分（JR信越本線特急で1時間15分）、首都圏東京へ約300km、北陸・関越自動車道で約3時間、JR上越新幹線では約2時間20分の距離にあります。また、関西圏大阪へ約520km、北陸自動車道で約5時間10分の距離にあります。面積は442.03km<sup>2</sup>で海岸線はおよそ42kmあります。令和2年国勢調査による人口は81,562人です。自然増減については、平成10（1998）年頃までは出生者数が死亡者数を上回っていましたが、その後は本格的な少子高齢化社会を迎え、死亡者数が出生者数を上回って自然減となる傾向が続いています。

#### □ 地勢

地域の南西から東部一帯にかけて、米山（992.6m）、黒姫山（891.0m）、八石山（518.0m）の山系とその支脈によって囲まれ、北西方向は、延長42kmに及ぶ海岸線で日本海に面しています。市のほぼ中央部を二級河川である鶺鴒川が小支流を合して、また、鯖石川が北部から流下してくる別山川と合流し日本海に注いでいます。この3河川の下流域には柏崎・刈羽平野が開け、水田地帯を形成しています。海岸線の南西部は、火山活動により海底から隆起した米山の山麓が急激に日本海に落ち込んで出入りの激しい磯浜海岸となり、景勝を成しています。一方、北東部はなだらかな砂丘が続き、海岸は遠浅になっており、絶好の海水浴場となっています。

#### □ 気象

過去10年間における平均気温は14.2℃、最高気温38.8℃、最低気温-5.3℃、平均年間降雨量2,223.0mm、平均年間降雪量241.2cm、平均風速2.2m/secです。

#### □ 産業

産業3部門別に全就業者に占める割合で比較すると、第1次産業3.4%、第2次産業35.0%、第3次産業60.5%となり、第3次産業が本市で最も就業人口が多い産業となっています。農業生産の主軸は米であり、これに畜産・そ菜・果実・観光農業等が複合経営の形で営まれています。漁獲物は、まだい・ひらめ・かれい類・めばる等の漁獲が多く、さざえ、もずく等の貝や海藻類も多く漁獲されています。また、獲る漁業だけでなく、つくり育てる漁業として、ひらめの稚魚やあわびの稚貝を放流し、地先海域の水産資源を継続的に利用できるよう取り組んでいます。さらに、さけ資源増大のために、谷根川において、さけのふ化放流事業を実施しています。観光面では、花火、海、食、景観のほか、歴史、文化などの多様な地域資源を多面的に活用し、誘客の促進を図っています。また、観光客の満足度の向上を図るため、観光ボランティアガイドによる、歴史・文化資源などの案内を積極的に行っています。

# 綾子舞

あやこまい



- 1 過去の現地公開で披露した小原木踊(下野)
- 2 綾子舞伝承者養成講座 高原田保存会
- 3 綾子舞伝承者養成講座 下野保存会
- 4 過去の現地公開で披露した常陸踊(高原田)

## 綾子舞の活動について

この度は第33回「民俗芸能と農村生活を考える会」へ出演の機会を頂き誠にありがとうございます。

私たち柏崎市綾子舞保存振興会では、後援会・学校・行政の協力を得て綾子舞を伝承していく活動として次の三つを中心に行っています。

まず一つ目は、昭和45年に小学校のクラブ活動として発足した「伝承学習」です。現在は地域の小学3年生から中学3年生の児童生徒約60人を対象に、5月から10月まで月1回程度、指導者が学校に赴いて指導を行い、11月にその成果を発表会で披露しています。

二つ目は、一般の人を対象とした「伝承者養成講座」です。5月から10月まで週1回程度、夜に実施しています。高原田と下野の座元別に分かれ、小学3年生から70歳代までの20〜30人が参加して、いろいろな公演に向けて練習を行っています。

三つ目は、毎年9月第2日曜日に綾子舞発祥の地、女谷の綾子舞会館特設舞台で開催される「現地公開」です。高原田と下野の座元が交互に、小歌踊・囃子舞・狂言を

12 演目程度演じます。

コロナ禍を乗り越え、令和4年度は3年ぶりに現地公開を行うことができました。新潟県内外から800人を超える沢山の方々から綾子舞を観に来ていただき、本当にありがたく思います。ミヤっぱり現地で演じるのは最高です。〃

綾子舞には沢山の演目がありますが、現在実演できる演目は二十数演目です。今回の現地公開では十数年ぶりとなる狂言や囃子舞を特訓して上演しました。実演可能な演目を、なるべく減らすことなく次の世代に繋いでいきたいと考えています。

今回は、お招きいただき5年ぶりに東京で公演ができることになり、子供たちはじめ綾子舞関係者一同大変楽しみにしています。

結びに、本日ご支援頂きました主催者様及び関係者の皆様に感謝申し上げます。



柏崎市綾子舞保存振興会  
副会長 猪俣 義行

# 綾子舞



## 昭和と令和・その先は…

現在の新潟県柏崎市女谷に伝わる綾子舞は、他域で傳承される民俗芸能とはやや趣を異にし、狂言・囃子舞・小歌踊という三つの違った芸能を総称して綾子舞と呼びます。

単に綾子踊りや綾子舞という芸能があることは違うのです。

民俗芸能に限らず傳承活動に取組む多くの地域でその存続と継承活動に苦慮し、危機的状況に陥った時期があったと思われます。

綾子舞も例外ではありません。

## 昭和の初めから

有名無実、まさに風前の灯状態であった昭和十二年に地元の郷土史家・桑山太市氏が柏崎の中心地より南に16km程の山村集落に綾子舞なる芸能のあることを知り、調査を始めました。しかし、その際にはさしたる成果はなかったと言います。

その後再三女谷の地へ足を運び、その記録を母校早稲田大学の演劇博物館へ「綾子舞見聞記」として寄贈されたということです。

時を経て、早稲田大学演劇博物館館長である本田安治教授が、館内巡視の折に偶然手にした小冊子の、思いも及ばぬ記述内容に触発され、事の真偽を確認するため現地調査に女谷を訪れ、地元の古老・高橋時中氏を中心とした数名の傳承者からの聞き取り調査と同時に実演を観る機会を得、そのまともな学会に発表されました。中央(東京)での公演をも企画・支援に尽力され、綾子舞が広く斯界しきがいの関心を呼ぶ芸能としての定着につながりました。これを機に地元(座元)の意識改革が始まり傳承復活への大きな力となったことは間違いない事実と思われまます。

ここに記したお二人の偉大な功績・足跡は、綾子舞の恩人として永く語り継がれることであり、忘れてはならないと思えます。







## 令和・その先の綾子舞

この芸能に地道に真摯に取り組んできた先人、女谷の風土、地元の人々の努力あつてのことでありますが、綾子舞そのものの不思議、魔力を感じるがあります。

順調な歩みに見える綾子舞の歩みにも様々な課題もあります。人材、後継者の確保・育成は単に

綾子舞だけの問題ではありません。

しかし、綾子舞には行政支援、学校教育、市民参加の三位一体となったバックアップ体制が整いつつあります。

稽古に励む子ども達、指導に当たる座元の献身、練習時の送迎等保護者の協力等々。

全ての人々に感謝の心をもって、今後も取組む伝承集団でありたい。



2



3



4

- 1 常陸踊(下野)
- 2 恋の踊(下野)
- 3 着さし舞(高原田)
- 4 三條の小鍛冶(下野)

## 綾子舞演目解説



えび  
[狂言] 海老すくい 下野

殿様が冠者に、明日の来客のご馳走に海老を買ってくるよう命じます。冠者が代物(お金)を請求しますが、殿様は「代物はない。自分で用意しなさい」と言います。腹を立てた冠者は、殿様をだましてやろうと考えます。途中の狂言小謡・小舞が、ほのぼのとした味わいの良さを添えている能狂言風のもので、海老すくいは両座元に残っていますが、それぞれの座元でせりふに違いがあります。



こきりこおどり  
[小歌踊] 小切子踊 高原田

菅原道真公が九州の大宰府に流されたときのことで、都を出発する前夜、都七条坊門の文という娘が、心を込めて見送るようにと夢の中でお告げを受け、三条大橋のたもとで綾竹(小切子)を持って別れの舞を舞って見送ったのが始まりと言われています。他の踊りと扮装が異なり、袴の裾をくくり、天冠をかぶり、扇の代わりに小切子を持って踊ります。



ひたちおどり  
[小歌踊] 常陸踊

常陸の国(現在の茨城県)鹿島神社の正月行事には、若い男女が心に想う好きな人の名を帯に書いて神前に供え、神職の禰宜がこの帯を結んで縁結びをします。縁結び常陸帯と言います。この後の酒宴での歌舞がもとになって、常陸踊が生まれたと言われていいます。常陸踊は、下野と高原田の両座元に残っていますが、歌にも踊りにも違いがあります。



おはらぎおどり  
[小歌踊] 小原木踊 下野

昔、京都の大原に住む女性を「大原女」と呼んでいました。小原木踊は、大原女が都にいる恋人に会うために薫物を売って歩く様を表現している踊りです。この小原木踊の特徴は、踊り子が登場する「出羽」と呼ばれる部分が他の踊りと違って、伴奏のない独吟が始まることです。19種類の扇の手振りが美しい恋の踊りです。

The 33rd Meeting to Think About  
the Folk Entertainment  
and Rural Life

Ayakomai  
Koharagiodori  
(Shimono)

Folk Entertainment of  
Kashiwazaki City, Niigata Prefecture

# “Ayakomai”

Folk Performance



Large cedar tree at  
Kurohime Shrine



Ukawa district

— Date and time —  
Saturday,  
**January 7,**  
2023

— Venue —  
Japan Education Center  
Hitotsubashi Hall  
(Chiyoda Ward, Tokyo)

✕ Organizer ✕



JA Tourism & Communications



Hitachiodori(Takanda)



The 33rd Meeting to Think About  
the Folk Entertainment and Rural Life

# Ayako-mai Folk Performance

— a folk Entertainment of Kashiwazaki City, Niigata Prefecture —

This year marks the 33rd folk performance of the festival, which provides urban residents with an opportunity to deepen their understanding of folk entertainment, people's lives, traditional culture, and history through the introduction of traditional folk entertainment in rural areas throughout Japan, with the aim of promoting exchanges between urban and rural areas to help revitalize their communities. In this year's performance, which will be held in Tokyo for the first time in three years, we would like to introduce "Ayako-mai Folk Performance," a classical performing art that has been handed down in Kashiwazaki City, Niigata Prefecture since the Muromachi Period of about 500 years ago and is designated as a nationally-designated important intangible cultural property, and discuss folk entertainment and local life with participants.

## Kashiwazaki City, Niigata Prefecture

Kashiwazaki City, the town blessed with nature and the birthplace of Ayako-mai Folk Performance, is located almost in the center of Niigata Prefecture, nestled in the bosom of Kariwa's Three Mountains, consisting of Mt. Yoneyama, Mt. Kurohime, and Mt. Hachikokusan, and has a long coastline of 42 km. The city flourished culturally in the old days through the trades of Kitamae-bune cargo vessels dealing with chijimi textiles, and it has many proud traditional events such as the "Enma Ichji Market", which has a history of over 200 years, and the "Gion Kashiwazaki Festival Sea Fireworks", known as one of the three major fireworks festivals of Echigo. The "Ayako-mai Folk Performance", in particular, has been handed down for about 500 years and is the city's representative cultural heritage.

The city is located almost in the center of Niigata Prefecture facing the Sea of Japan and is the center of the Kashiwazaki-Kariwa area. The prefectural capital, Niigata City, is 84 km away and takes 1 hour and 30 minutes by Hokuriku Expressway (1 hour and 15 minutes by JR Shinetsu Line limited express), while the metropolitan area of Tokyo is about 300 km away and takes about 3 hours by Hokuriku-Kanetsu Expressway and about 2 hours by JR Joetsu Shinkansen. Osaka in the Kansai region is about 520 km away and takes about 5 hours and 10 minutes by Hokuriku Expressway. The city covers an area of 442.03 km<sup>2</sup> and has a coastline extending about 42 km.



Mt. Yoneyama



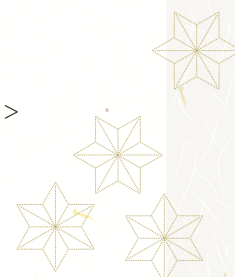
Kashiwazaki Fireworks Festival



The 33rd Meeting to Think About the Folk Entertainment and Rural Life

**Ayako-mai Folk Performance,**  
a folk entertainment of Kashiwazaki City, Niigata Prefecture

- 12:00 a.m. Doors open and reception begins  
 1:00 p.m. Opening remarks  
 1:10 p.m. **【Part 1】** Exploring the background of folk culture - Kashiwazaki City,  
 Niigata Prefecture and Ayako-mai Folk Performance -  
 Break (approx. 20 min.)  
 2:00 p.m. **【Part 2】** Special performance of folk entertainment <Ayako-mai Folk Performance >  
 Programs **【Simono Kouta Dance】** Oharagi Dance  
**【Takanda Kouta Dance】** Hitachi Dance  
**【Takanda Kouta Dance】**Kokiriko Dance  
**【Simono Noh Farce (Kyogen)】** Shrimp Scooping  
**【Simono Kouta Dance】** Hitachi Dance  
 At around 3:30 p.m. Closing



◆◆◆ **Explanation of Ayako-mai Folk performance** ◆◆◆

Ayako-mai folk performance has two proprietor, Takanda district and Simono district.



Oharagi Dance

**【Simono Kouta Dance】 Oharagi Dance**

Women who lived in Ohara, Kyoto was once called "Oharame". Oharagi Dance is an expression of Oharame peddling firewood to meet her lover in the capital. The feature of this Oharagi Dance is that the scene called "Sashi," where the dancers make their appearance, begins with a vocal solo without accompaniment, which is different from other dances. It is a dance of love in which 19 different beautiful hand movements with fans are performed.



Hitachi Dance

**【Takanda Kouta Dance】 Hitachi Dance**

At Kashima Shrine in Hitachi Province (present-day Ibaraki Prefecture), fortune-telling was performed during the New Year's holiday, in which young men and women would write the name of the person they loved on a strip and offer it before the altar, then the Shinto senior priest would tie the strip and perform matchmaking. This paper strip was called the "Enmusubi Hitachi-obi". It is said that the singing and dancing that took place during the drinking bout became the basis for Hitachi Dance. The tradition of Hitachi Dance has been preserved in both Simono and Takanda, and each of them performs different songs and dances.



Kokiriko Dance

**【Takanda Kouta Dance】Kokiriko Dance**

This is the story of when Sugawara no Michizane was exiled to Dazaifu in Kyushu. On the eve of his departure from the capital, a girl named Aya of Shichijo Bomon in the capital was told in a dream to see him off with all her heart, and she did a farewell dance at the foot of Sanjo Ohashi Bridge holding a lease rod (clavé-like folk instrument) to see him off, which is said to be the origin of this dance. The costume differs from other dances in that the dancers tie up the hem of their hakama trousers, wear a celestial crown, and hold Kokiriko instead of a fan.



Shrimp scooping

**【Simono Noh Farce (Kyogen)】 Shrimp Scooping**

The lord orders the young servant to buy some prawns for a feast for tomorrow's guests. When the young servant asks the lord for money, the lord tells him that he has no money and that the young servant should prepare it for himself. The young servant gets angry and plans to cheat the lord. The kyogen chanting and short kyogen dance performed during the performance add to the heartwarming flavor of the Noh farce style. Shrimp scooping is still performed in both territories, but the lines are different for each.